

書 燈



写真：KOBE2024 世界パラ陸上 企画展

文弱のすすめ

境 智 司

ああ、、、先週金曜日が指定都市立図書館長会議で、明けて火曜日が図書館協議会、その合間の今日月曜日が書燈の締め切り。試験前にはどういう訳か関係のない本を読みふけてしまったように、未だにダメな図書館ど素人の総務課長です。

さて書燈、当然図書館の話をするべきですが、まずは旬の話題ということで書店の話から。

経済産業省は今年3月、大臣直轄の「文化創造基盤としての書店の振興プロジェクトチーム」を設置することを発表しました。大臣と書店経営者が直に意見交換する「車座ヒアリング」を開催するなど、書店を日本の重要なコンテンツ「産業」の一つと位置付け、官民連携策を展開しようとしていることから注目されています。

一例として、図書館（OPAC）やwebとの連携も視野に入れた、書店在庫の横断検索システムの実証実験が始まっています。「すぐに読みたい」を実現するため図書館と地域書店が連携し、予約待機者の人数や在庫がある書店はどこが近いのかなどの情報提供を通じて、本と読者との接点を最大化するものです。

じゃあ神戸市は、図書館はどうなの？

はいっ、先日、市長が神戸における「本」文化を振興していきます、と発表したところですよ。

例えば、神戸にある個性ある出版社とその書籍の紹介、絵本原画等の展示や神戸を含む関西の大小

様々な7書店によるトークセッションなどを開催します。

このようなイベントに加え、書店や出版社の横のつながり或いは行政がどのように関わり施策を展開していくか、といった検討を進めることとしています。

いずれも、本との出会いを大切にする街をみんなでめざそう！出版文化を振興していこう！とプロジェクトが動き始めています。

また、ご存知のとおり、現在は垂水・北・三宮の3地域館を同時に整備中で、身近な図書館の魅力アップを目指しています。

当然ながら職員は大変ですが、今ほど期待感に満ち溢れ幸せな時はない筈だ！ともいえます。

今、図書館に通い始めて4か月。先日までの梅雨の間、家の近所の大きな池の周りを散歩すると、水の香りや湿気た土の香りがしました。ここ図書館では、花壇を過ぎて角を曲がると、レンガの壁や建物が目に飛び込むのと同時かそれより先に、いつも図書館特有の紙の香りが漂います。

不器用な私は、時間を上手く遣り繰りできません。なので、閉館時間を過ぎても業務は山積み、少し粘ってみますが休日までは頑張れません。そこで文弱。本業（家事）はしたふり、東の間溺れています。

（総務課長）

分類表の改訂から5年目を迎えて

高橋 一郎

1. はじめに

神戸市立中央図書館（以下「当館」）では、所蔵資料に排架用の分類記号を与えるため、「神戸市立中央図書館分類表」を定めている。その内容は、「日本十進分類表」（以下「NDC」）を基に、所蔵資料に適用する分類記号の桁数を定めたものだが、独自の分類項目の設定など NDC とは異なる規定も含まれる。適用範囲は、原則として新規に受け入れる図書資料のうち、郷土資料を除く一般書である。

この分類表について、2020年度に NDC 新訂 8 版（以下「NDC8」）準拠から NDC 新訂 10 版（以下「NDC10」）準拠への改訂を行った。この度、改訂から 5 年目を迎えるにあたり、その経緯を記すと共に、今回の改訂の特徴について、幾つかの例を挙げて紹介する。

2. 経緯

改訂前の分類表の適用が開始されたのは、現在の中央図書館 1 号館が開館した 1980 年である。準拠する NDC8 は、1978 年に刊行されたばかりであった。しかし、永年用いていたため、新たな主題や蔵書構成の変化への対応が難しくなり、適用開始から 30 年を経た頃には、一部の書架において、分類表以外の基準により排架せざるを得ない状況となっていた。

一方、NDC については 1995 年に新訂 9 版（以下「NDC9」）が公開され、多くの自治体の公共図書館に採用されていった。さらに 2014 年には、現在の最新版である NDC10 が公開された。

NDC の改訂は、民間事業者による書誌データの作成にも影響を与えた。神戸市立図書館では、株式会社図書館流通センターが作成する書誌データ（以下「TRC MARC」）を利用しているが、その TRC MARC への NDC8 の適用が、2020 年末を以って終了することが決定された。

こうした状況のもと、当館においても分類表を改訂すべく、2015 年度に改訂の方針を検討し、NDC10 準拠とすること、また既存資料への遡及適用を行わないこと、さらに改訂前後の資料を混配することを決定。翌 2016 年度から約 2 年間をかけ、全ての分類項目の見直しを行った。

また、NDC10 に対応する TRC MARC は、従来のものとはデータ形式が異なるため、当時用いていたコンピュータシステムにおいて利用するには、形式の変換が必要であった。そこで、2018 年度から対応方法を検討し、2019 年度に専用のアプリケーションを作成。これにより、新たな形式の TRC MARC を利用することが可能になった。

こうして 2020 年 4 月より、NDC10 に対応した TRC MARC の利用を始めると共に、新規に受け入れた資料に対して、改定後の分類表の適用を開始した。なお、2023 年 1 月のシステム更改に伴い、前述した専用のアプリケーションの運用は終了した。

3. 改訂の特徴

(1) 蔵書構成への対応

今回の改訂では、蔵書構成の変化に対応するため、幾つかの分類項目を追加した。

改訂前の情報学に関する分類項目は、「007 情報科学」と「007.6 データ処理」のみだったが、技術の発展と普及に伴い所蔵資料が著しく増加していた。そこで、「007」の下位に「007.1 情報理論」「007.2 歴史.事情」「007.3 情報と社会」「007.5 ドキュメンテーション.情報管理」を追加。また、「007.6」の下位には「007.6.1 システム分析.システム設計.システム開発」「007.6.3 コンピュータシステム.ソフトウェア.ミドルウェア.アプリケーション」「007.6.4 コンピュータプログラミング」「007.6.5 各種の記録媒体」を追加することにより細分化した。

また、ソフトウェアに関する資料の場合、ワープロソフトは「336.5 事務管理」、スマートフォンアプリは「694.6 電話」などと、改訂前は役割によって分類が異なっていたが、改定後は新たに追加した「007.6.3」に集約することとした。

さらに、NDC10 の別法に拠り「007.82 コンピュータ」と「007.9 情報通信.データ通信.コンピュータネットワーク」を追加。改訂前は 5 類（技術.工学）に分類していた同分野の資料へ適用することとした。

食品や料理に関する資料については、改訂前は全て「596 食品.料理」に分類していたが、所蔵資料が非常に多く、利用に支障を来していた。そこで、今回の改訂において「596.2 料理法.献立」「596.3 材料による料理法」「596.4 目的による料理」「596.6 パン.菓子類」を追加。特に資料数の多い「596.2」については、「596.21 日本料理」「596.22 アジアの料理」「596.23 西洋の料理.その他の様式の料理」に細分化した。また、飲食店などを紹介する資料に適用するため、独自に「596.1 店舗案内」を設けた。

「726.1 漫画.風刺画.劇画」についても、所蔵資料が多く、かつ漫画作品と漫画に関する評論などの資料が混在していた。そこで、「726.11 漫画・劇画論.風刺画論」と「726.17 技法」を追加し、漫画作品と区別できるようにした。これらの分類項目は、NDC10 の「726.101」と「726.107」に基づくが、資料に貼付するラベルの視認性を考慮し、当館の分類表では分類記号の 5 桁目の 0 を省略した。



(2) 社会状況への適応

分類表の改訂に際しては、社会的価値観の変化に対応することも重要な課題であった。

今回の改訂において新たに追加した「367.1 女性. 女性論」と「367.5 男性. 男性論」は、ジェンダー問題への社会的関心の高まりと資料の増加に対応すべく、NDC9 から新設された分類項目である。

点字と手話については、改訂前は「378 障害児教育」の下位に分類されていた。しかし、点字や手話が文字や言語としての認識されるようになったため、NDC10 に基づき「801 言語学」の下位に「801.91 点字」と「801.92 手話」を追加した。

考古学に関しては、従来は先史時代を扱う学問領域として認識されることが多く、改訂前の日本史における分類は、原始時代と共通であった。しかし、実際の研究対象は特定の時代に限定されないため、「210.2 歴史補助学」の下位に「210.25 考古学」を追加した。なお、NDC10 の分類記号は「210.02」及び「210.025」だが、前述の理由から「210」の下位の分類記号については、3桁目の0を省略している。

(3) 継続性への配慮

分類体系の継続性を重視し、NDC10 準拠としなかった分類項目もある。

当館独自の分類項目である「335.7 通貨のカタログ・写真集」や「819 アイヌ語」は、改定後もそのまま引き継いだ。

犬と猫の飼育については、NDC9 以降「645.6 犬」「645.7 猫」とされているが、改訂前後の資料を混排することを考慮し、改訂前の「645.6 犬.猫」のままとした。これは、改訂前の分類表には「645.7 うさぎ.養兎業」があり、NDC10 の通り改訂すると、同じ分類記号を持つ異なる主題の資料が、書架上に混在するためである。

歴史物語と軍記物語は、NDC9 から作品の成立年代によって古代と中世に分けられた。しかし、所蔵数や出版状況に鑑み、時代によって分けず、改訂前のまま「913.42 歴史物語」「913.43 軍記物語」とした。そのため、NDC9 において古代の作品を分類するために新設された「913.39 歴史物語」と「913.399 軍記物語」は、何れも採用していない。

4. おわりに

図書館における分類の歴史は、世界最古の図書館ともいわれる紀元前7世紀のアッシュルバニパルの図書館にまで遡るといえる。以来、分類の方法は幾多の変遷を遂げており、今後も時代に適応するために変わり続けることが求められるだろう。当館の分類表も、また然りである。 (利用サービス課)

〈新規採用職員エッセイ〉

利用者とともに図書館をつくる

石黒 友恵

私は教育分野で社会人経験を積んだ後、司書として地域の図書館で働き、この春から当館職員となった。私が所属する企画情報ラインでは、地域図書館との連絡、行事企画の調整、図書館に係る目標及び評価など、神戸市立図書館全体にかかわる業務を行っている。窓口で直接利用者の方の対応ができないのはすこし寂しいが、地域館と中央館をつなぐ連絡役としての仕事を楽しみながら取り組んでいる。

私が公共図書館の司書を志したのは、赤ちゃん、年配の方、外国にルーツを持つ方等、幅広い方々を対象に、人と本をつなぐ仕事をしたいと考えたからである。学生のころから図書館が好きでヘビーユーザーの私だが、司書資格を取ったのは社会人になってからのことだ。勉強を始めたきっかけは、図書館と本について体系的に学びたいという好奇心からだった。学習を進める中で、図書館は、本をはじめとする情報資源を一般の方々に提供し幅広い学びを支える施設であると知った。そのうちに、「図書館って、働いてみたらどんな場所なんだろう。人と本をつなぐ司書の仕事がしたい。」と考えるようになり、転職を決めた。今は、大好きな街・神戸の図書館司書として、日々楽しく働いている。

司書の世界に一歩足を踏み込んでみると、業務には多様性があり易しい仕事ばかりではないと気づいた。書架整理・貸出・返却・レファレンスといったフロアワーク、資料の収集から提供・施策の企画などのバックヤード業務…体力仕事もままあり、司書の仕事の幅広さを感じている。

今後、様々な業務を経験するたびに、きっと学ぶことがたくさんあり、時には難しい判断が求められることもあると思う。しかし、どんなときも市民目線に立ち、利用者とともに図書館を作る司書でありたい。そのために大切なことは、まず、世間にアンテナを広く張り新しい取組みに恐れずチャレンジすることだ。同時に、自らの未熟さを常に自覚しながら能力を高めていきたい。この初心を忘れず、日々誠実に歩んだ先に、地域の方々に愛される図書館が出来上がっていくと信じている。

(総務課)



ー能登半島地震支援（図書館カードの発行）ー

2024年1月1日に発生した能登半島地震で被災し神戸市内に避難された方が希望される場合は、図書館カードを発行することとした。申込書には市内の滞在先住所を記入、身分証明書を提示いただく。被災により身分証の提示が難しい場合は、個別に事情をお伺いしている。（利用サービス課長・榊井）

ー陳舜臣生誕 100 年記念展示ー

神戸ゆかりの作家・陳舜臣の生誕 100 年にあたり、中央図書館で2月1日～29日まで資料展示「神戸の作家 陳舜臣を読む」を開催した。1階特設パネルは「陳舜臣さんを読もう 文章から浮かぶ神戸の情景」、2階展示ケースは「陳舜臣さんの新聞・雑誌連載小説」をテーマとした。（利用サービス課・宮本）

ーKOBE2024 世界パラ陸上 企画展ー

「世界パラ陸上競技選手権大会」（5月・ユニバー記念競技場）に向けて、4月3日～25日、中央図書館1階ロビーにて連携企画展を実施した。大会主催の国際スポーツ室が、競技のパネルや競技用車いす、選手のメッセージを展示、パラ陸上の絵本・漫画などが読めるコーナーを設置。図書館は関連図書の貸出を行なった。（利用サービス課係長・間屋）

ーファッション美術館に返却ポストを設置ー

返却時の利便性向上のため、六甲アイランドの神戸ファッション美術館ライブラリー内に返却ポストを設置。ライブラリーの開館時間中の利用が可能。本の回収は当面週2回行う。4月25日供用開始。

（総務課係長・西山）

ー文化ホールとの連携企画・おはなし会の開催ー

4月27日に文化ホールとの連携企画となる、「千代野さんのわくわくドキドキおはなし会」を中央図書館で開催。1階ロビーで行うのは初の試みで、ロビーにマットを敷き、通りがかりの利用者も参加できるようにした。大人24人、子供17人の参加があり、好評だった。（利用サービス課係長・棟安）

ーマイナンバーカードによる貸出方式の変更ー

マイナンバー法の改正に伴い、マイナンバーカードによる貸出方式を従来のシリアル連携方式からマイキープラットフォーム方式へ変更。各館の端末に専用のソフトウェアをインストールするとともに、館内やHPでの案内を行い、5月27日の同法施行までに変更を完了した。（総務課課長・村井）

ー中央図書館の視聴覚コーナーレイアウト変更ー

児童コーナーの拡張に伴い、6月25日から同コーナーを映像ブース6席、音響ブース1席とした。2席減ったが、通路を整理し、個別スペースを確保することができた。（利用サービス課係長・棟安）

ー蔵書点検（方式変更と日程）ー

2023年度は全館、蔵書点検を実施しなかったため2年ぶりの点検となった。新たな点検方式として主にハンディ端末を使って資料番号をスキャンすることで、PCの移動やケーブルの引き回しが不要となった。後でデータを流し込む処理手順は不慣れだったため、とまどいもあったが大きなトラブルなく全館無事に終了し、2年分の不明図書を確定することができた。日程は以下のとおり。

中央	6月6日～6月20日	北神	6月12日～6月17日
東灘	5月15日～5月20日	新長田	4月8日～4月15日
灘	4月3日～4月8日	須磨	5月29日～6月3日
三宮	5月22日～5月27日	名谷	6月5日～6月9日
兵庫	4月3日～4月8日	垂水	4月17日～4月22日
北	5月29日～6月3日	西	5月22日～5月27日

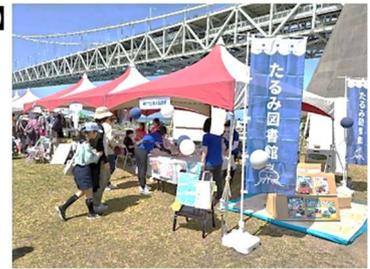
（総務課・松尾）

ー地域館トピックスー

【たるみっこまつり】

5月11日、垂水図書館が、神戸まつり垂水区協賛会主催の当催しに参加した。

オリジナルバッグ制作、資料展示、オリ



ジナルぬりえ配付等を行った。図書館ブースへの来場者数は600人を超えた。後日、まつりで制作したバッグを持って来館した方にシール等をプレゼントし、来館のきっかけを作った。

【第3回森林植物園で本と植物のフェスタ】

5月26日、兵庫・北・北神・名谷図書館の4館が企業等と連携しおはなし会等を実施した。参加者は約450人だった。（総務課・石黒）

ー手帳ー

会議 毎月1回 中央図書館職員安全衛生委員会

2.2 第8期第3回神戸市立図書館協議会

2.14 令和5年度近畿公共図書館協議会第2回理事会

6.20 市民救命士講習会（中央図書館職員32名参加）

6.26 令和6年度兵庫県図書館協会理事会・総会

7.2 令和6年度近畿公共図書館協議会第1回理事会・総会

7.30 第8期第4回神戸市立図書館協議会

工事 2.13 須磨図書館児童コーナーアコーディオンカーテン等更新工事

2.19 兵庫図書館サインライトアップ工事

4.8～4.15 新長田図書館エレベーター更新工事